史跡 牽牛子塚古墳 越塚御門古墳

調査前の様子

牽牛子塚古墳は江戸時代の山陵研究家、北浦定政の『松の落ち葉』や平塚瓢斎の『陵墓一隅抄』にその存在が記されており、江戸時代からすでに認識されていました。そこでは「あさがお塚」と記されており、墳丘がアサガオの花びらのように多角形であったことからそのように呼ばれています。

自然災害等による墳丘の崩落や経年劣化による盛土の流出により、墳丘の弱体化が懸念されていました。このような状況を踏まえて、明日香村ではどのように古墳を保護するかを検討するため、墳丘とその周辺の発掘調査を実施することとなりました。

発掘調査の成果

墳丘は版築を用いた対辺約22mの八角墳で、墳丘斜面には二上山産の凝灰岩切石が施されています。埋葬施設は二上山産の凝灰岩の巨石(約80t)を用いた南に開口する刳り抜き式横口式石槨で、石室内には二つの墓室が設けられています。石室内等からは当時としては最上級の棺である夾紵棺片をはじめ、七宝製亀甲形飾金具やガラス玉、歯牙などが出土しています。

さらに牽牛子塚古墳の南東側に接した場所から新たな古墳を検出し、大字と小字名から越塚御門古墳と命名しました。越塚御門古墳は版築を用いた一辺約10m程度の方墳と考えられます。埋葬施設は石英閃緑岩(通称、飛鳥石)の巨石を使用した南に開口する刳り抜き式横口式石槨です。石室内からは漆膜や釘などが出土しています。

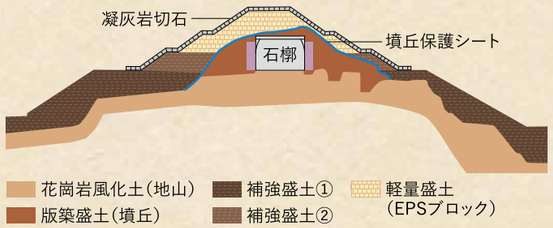
牽牛子塚古墳と越塚御門古墳の築造年代は、埋葬施設の構造や出土遺物等から7世紀後半頃と考えられます。

牽牛子塚古墳は古代の「越智岡」に所在するとともに、大王墓(天皇陵)のみに採用されている八角墳であることや埋葬施設が特異な構造であることから、『日本書紀』天智天皇六年条に記されている斉明天皇と間人皇女が合葬された小市岡上陵の可能性が高いとされています。さらに越塚御門古墳についても埋葬施設の構造や牽牛子塚古墳との関連性から、小市岡上陵の前にある大田皇女の墓の蓋然性が高いとされています。

整備の概要

発掘調査の結果、墳丘の弱体化が認められ、恒久的な保護を行う必要性が高まりました。明日香村では、その成果を踏まえ、本質的な価値の担保を図りながら牽牛子塚古墳の墳丘を後世に伝えるべく、劣化した墳丘や石槨を補強盛土で覆い、外観を発掘調査の成果に基づき築造当時の姿に復元しました。復元した外観は墳丘を保護するためのシェルターの役割を果たしています。さらに古墳周辺の地形は築造当時の地形になるよう修景を行い、飛鳥時代の空間を創出しています。

■ 牽牛子塚古墳 墳丘復元概念図



アクセス

鉄道

近鉄吉野線「飛鳥」駅下車、西へ徒歩約8分(約700m)

バス

奈良交通明日香周遊バス「飛鳥駅」下車、西へ徒歩約8分(約700m)
奈良交通八木下市線「飛鳥駅」下車、西へ徒歩約10分(約800m)

自動車

自動車でお越しの方は、以下の駐車場をご利用ください。
・アグリステーション飛鳥駐車場、北東へ徒歩約5分(約400m)
・道の駅「飛鳥」駐車場、西へ徒歩約8分(約700m)

お問い合わせ 明日香村教育委員会事務局文化財課
〒634-0141 奈良県高市郡明日香村大字川原91-3　電話:0744-54-5600　FAX:0744-54-5602

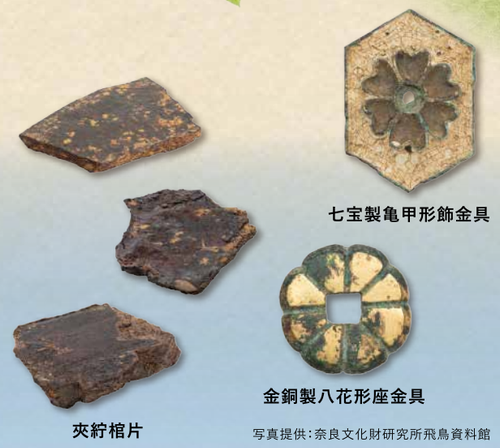
発行日:令和4年3月

明日香村

調査前の牽牛子塚古墳

牽牛子塚古墳の墳丘

牽牛子塚古墳の埋葬施設

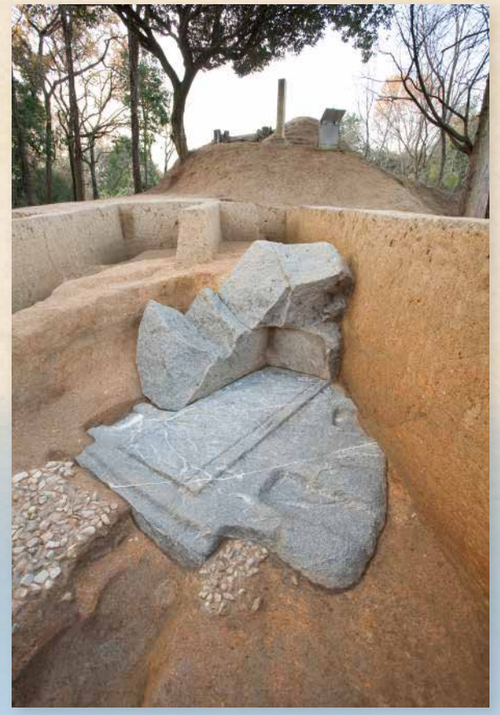


写真提供：奈良文化財研究所飛鳥資料館

牽牛子塚古墳の出土遺物

□ 牽牛子塚古墳と越塚御門古墳の模型

アサガオと牽牛子塚古墳（アサガオの丘）



越塚御門古墳の埋葬施設

展望広場からの眺望